

優秀賞 新潟県 山田様（中学生 女性）

父は板金職人だ。どんなに暑い日でも屋根に登って仕事をしていた。重い屋根材も一人で肩に担いで屋根まで上げていた。身体の半分も空に身を乗り出して屋根を葺いている様子を見たことがある。

父は小柄な人だが、とても頼もしく力強く見えた。

そんな父が病気になった。命に関わるような重い病気だ。両足にマヒが生じてしまい、今は家で療養している。

たまに私が足をさすってあげるのだが、ベッドに横たわる父の足は、筋肉が落ちてしまい、驚くほど細くなってしまった。見ているだけでも胸が痛くなる。

父はベッドの上でも、仕事を気にしている。任せてくださった方々が困らないように、電話で仕事仲間に頼んで仕事の段取りを進めたりしていた。仕事をしないと即収入が途絶えることになる。そのことも父の大きな心配事になっているのだと思う。

そんなときに、母が父に障害年金の申請の相談をした。

私には、障害年金なんて聞き慣れない言葉だ。年金といえば、祖父母のようなお年寄りが受け取るものだと思っていた。そう母に言うと、母は、「確かに、障害年金はあんまり馴染みがないと思うよ。でも、年金って年齢に関係なく困ってる時にも使える制度としての意味合いもあるんじゃないかな。」と言った。

授業で聞いたり、新聞やテレビからの情報では、年金は「世代間の支え合い・世代間のバトンパス」という言葉で表されることが多いように思う。

それは、今祖父母が受け取っている年金は、父母たち働く世代が納める年金の保険料によって賄われている。受け取る祖父母も若い頃には保険料を支払い、曾祖父母たちを支えていたことになる。そして、父母の受け取る年金は私たちが支えることになる、という面だ。

私はそうした世代間の支え合いが年金という制度であり、それ以外のものがあることは知らなかった。

母は年金事務所に相談したのだという。制度の説明や申請の仕方など丁寧に教えてもらったそうだ。父の障害の状態によって年金が受け取れるかどうかはわからないけど、申請できるというだけでも心強いし、申請してみようと思うと言っ

ていた。

母の話を聞いた中で、私が印象深かったのは、「障害年金の請求には、今までの国民年金の保険料がちゃんと支払われているかが重要なのだ」と年金事務所の方が父の記録を確認した折、未納もないので大丈夫とおっしゃったという所だ。

もしも父が保険料を支払っていない期間が長くあったりしたら、申請もできなかったのかもしれない。そうしたら、私たち家族ももっと困ったことになるかもしれない。保険料を支払うということはかなり重要だ。

今、国民年金の納付率は六割くらいだときく。

将来もらえるかどうか分からない年金のために、今苦しい思いをしてまで保険料を支払うことに抵抗があるのだという。

私には遠い話だし、と聞き流していたニュースがとても身近に思えてきた。

保険料を支払うことは、将来の自分のためだけでなく、自分の家族のためにも、とても大事なことだと気付いた。

そして、年金という制度には、保険料を支払うということで、今まで制度を支えてきた人が、障害を負ってしまい、保険料を支払うことができなくなったとき、今度は制度に支えてもらうという面があるんだということを、父を通して知ることができた。

支え合いという言葉は、世代間に限ったものでなく、元気な自分から元気でなくなったときの自分へのものでもあるのだ。